

最先端医療のリハビリテーションの現場に スペースプレーヤーが導入されました。

大阪府大阪市 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 様



リハビリテーションのメンタルケア空間の演出ツールとして スペースプレーヤーに大きな期待が寄せられています。

大阪国際がんセンター、大阪急性期・総合医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪精神医療センター、大阪母子医療センターからなる地方独立行政法人「大阪府立病院機構」。その中の大阪国際がんセンター（旧大阪府立成人病センター）は、創設来50有余年にわたって、患者様の目線にたった最先端の医療を提供されてきましたが、建屋の老朽化に伴い、2017年3月に新築・移転されました。

今回、同センターのリハビリテーション科に当社スペースプレーヤーが採用されました。リハビリテーション科では、理学療法士7名、作業療法士3名、言語聴覚士2名が病状や治療に合わせて、予防、回復、維持、緩和と統合的、多面的な目的をもったリハビリテーションを実施。メンタルケア空間の演出の一部としてスペースプレーヤーをご活用いただいています。



大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター

リハビリにおけるメンタルケア空間の演出に スペースプレーヤーを導入。

リハビリテーション科では、毎日約150人の患者様がリハビリに取り組んでおられます。がん患者の方は、心理的ストレスを持っておられるケースが多く、身体リハビリテーションと合わせてメンタルケアが重要となります。そのため、同センターのリハビリテーション科では、以前からリハビリ空間に癒し効果を取り入れるために、天井面に絵画を飾る構想を持っておられました。しかし、設置・運用面での課題もあり、見送られていました。

今回、病院を移転、新築する際に、建設会社様から当社のスペースプレーヤーのご紹介があり、導入いただくことになりました。

外光の入る空間での投映画像の 明るさや色の再現性を実機で事前評価。

リハビリテーションを行う空間には、モチベーションを保つための環境づくりが必要です。同センターでも、明るい色調の内装に外光が入る心地よい空間になっています。そこで、導入に際して事前に実機で投映テストを実施。無機質になりがちな空間に映像が流れる効果や画像の明るさ、色の再現性をご確認いただき、ご採用が決定しました。

コントラストが若干弱いのでは、という不安もありましたが、実際にリハビリテーションされている患者様から「モチベーションがあがる」「癒される空間」と好評です。



リモコンの操作性、コンテンツの自由性など 使い勝手の良さも高評価。

仰臥状態でのリハビリも多いため、投映場所は天井面に。斜めの投影でも台形補正できいかに投映できるスペースプレーヤーの特性をいかして柱部分に設置されています。スタッフの皆様からも、リモコンのボタンで容易に調整できると評価されています。

また、コンテンツの自由性も高く評価されています。現状は5パターンの映像ですが、ご家族の写真や動画、患者様の趣味に合った映像を投映するなどのパーソナルユースも検討されています。ポータブルの床置き型のメリットをいかした活用シーンの広がり、可能性を期待されています。



納入商品

■ Space Player 2000 lmタイプ 床置き型×4台

在庫区分：○…工場在庫品



Space Player スポットライト型プロジェクター

NTN91003W (ベース本体) +
NTN98003W (床置き台座)

○オープン価格

仕様／

- 光源：レーザーダイオード ●光出力：2000 lm
- 入力電圧：AC100V 50Hz／60Hz (床置き型)
- 消費電力：240W
- 寿命：20000時間 (初期の50%の明るさになるまで)
- 【灯具】プラスチック (ホワイトつや消し仕上)
- ワイヤレスリモコン付 ●推奨映像解像度：1,024×768

病院という空間に映像を取り入れるという新しい取り組みでした。スペースプレーヤーは内装を変えることなく、しかも、様々な映像を投映できるメリットがあります。実際に患者様の評判もよく、リハビリルームの癒しの空間づくりに有効な手段だと考えています。今後、日々の活用を通じて、新しい演出の検討も進めていきたいと思いを。



リハビリテーション科のスタッフの皆様